



▲足場が撤去され姿を現す二本煙突。その後足場の撤去を終え、5月13日に竣工式が行われた。



▲修復後の煙突頭頂部。劣化の原因となった雨水の浸入を防ぐため、ステンレス製の覆いを設置



▲修復後の煙突表面（地上約30m）。レンガを入れ替え、目地を修復した（中央から左）。

# 炭都のシンボル 次の世紀へ

## 二本煙突修復工事完了

今年建造100年を迎えた「二本煙突」の修復が、4月28日に完了しました。

昨年4月ごろ、表面レンガの剥落が見つかった二本煙突。その後、市の調査で両煙突の南側表面高さ20〜40mに、幅約1mにわたるレンガの剥離と目地の損傷が確認されていました。

主な原因は、風雨による表面の劣化と、頭頂部から浸入した雨水に起因するレンガの剥離。頭頂部の緩んだ目地から侵入した雨水が、煙突内部を伝って中央付近で表面に染み出し、レンガを凍結破壊していたことが判明しました。

市では、9月から工法調査をはじめ、2月から工事を進めてきました。主な補修内容は、頭頂部の雨水侵入防止、剥落したレンガの入れ替え、損傷した目地の補修。

頭頂部に、ステンレス製の覆いを設置し、傷んだレンガは将来剥落する恐れがあるものを含め約1200枚を交換。あわせて約4割の目地を補修しました。おおむね30年毎のメンテナンスを必要としますが、今回の補修は、今後100年の保存を可能にするもの。雄大にそびえるその姿が、次の世紀に伝えられることとなります。



▲修復前の煙突南側表面。目地が消失し、レンガの剥離が起きている。